

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立各務原西高等学校

学校番号

12

I 令和元年度 自己評価

教務

本年度の当初に立てた目標

- (1) 基礎的・基本的な学力を定着させるとともに、発展的な内容も採り入れた充実した授業を実践する。そのために研究授業(年間2回)や互見授業(年間4回)を実施し、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践を一層支援する。
- (2) 「総合的な学習の時間」と授業との関連性について検討を加えて充実した活動を行う。
- (3) 年次会や他の分掌との連携を密にし、様々な問題を抱える生徒への適切な支援や指導を行い、保護者との連携を図る。
- (4) 様々な行事や業務等の効率化、環境整備など見直しを図る。
- (5) 互見授業(年間4回)や職員研修を活発化して研修に努める。

目標に対する達成度と評価

達成度(上記の(1)~(6)についての評価)

- | | | | | | | | | |
|---------|-------|-----|-------|-----|-------|---|-------|------|
| (1) 高い5 | ----- | (4) | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (2) 高い5 | ----- | 4 | ----- | (3) | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (3) 高い5 | ----- | (4) | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (4) 高い5 | ----- | 4 | ----- | (3) | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (5) 高い5 | ----- | (4) | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |

評価(評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等)

評価すべきこと

- (1) 生徒の学力等に応じた授業が積極的に行われ、模擬試験を始めとして良好な結果を得ることができた。
- (2) 総合学習の実施に関しては、年次の特色を出したプログラムが実施され、円滑に実施することができた。
- (3) 本年度は欠席が過多数な生徒が多く、転学者や退学者も例年よりも多くでた。その中で生徒の欠席状況やその理由を早期に把握し、担任や年次主任との検討を重ねて適切な選択肢を示しながら指導にあたることができた。
- (4) 明確でなかった基準を明確にするなど、業務が円滑に流れる基盤を作ることができた。
- (6) 教職員の中で授業改善に対する意識が高まり、アクティブ・ラーニング型授業を始めとして、様々な取り組みを取り入れた授業が行われた。

改善すべきこと

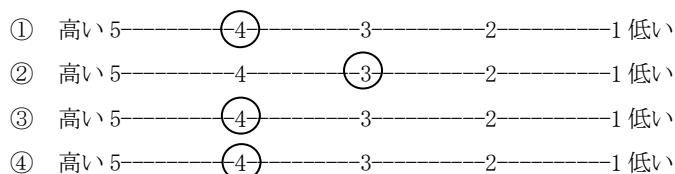
- (1) 授業への意識を高めるとともに、従来の受動的な学習方法から生徒自ら課題を見つけ学習に取り組む、主体的な学習方法への転換など、学習指導における課題は多くある。
- (2) 欠席が過多数な生徒が例年よりも多く出た。生徒への指導は適切に行うことができたが、学校へ来たくない生徒を生じさせないためにはどうしたらよいかを、今後の課題として考えていく必要がある。
- (3) 総合的な学習の時間については、継続的に実施可能なプログラムが確立できるように、毎年の実施内容を蓄積、再構成し、次年度の計画に反映させていきたい。
- (3) 新テストや新学習指導要領に対応するためには、さらに授業研究を深めるとともに、学習指導の在り方について検討して、教員間で共通の認識を持つ必要があると考える。

本年度の当初に立てた目標

- (1) 次代を担う社会の一員となるために必要な倫理観と規範意識を身につけ、責任ある行動や主体的な判断ができる生徒を育成する。安全で安心な学校生活を送れるよう全職員で組織的な生徒指導を目指す。
- ① 場に応じた身だしなみ・言動ができる。
 - ② 時間を守る。
 - ③ 自ら進んで挨拶ができる生徒を育成する。
 - ④ いじめや不登校傾向など、問題の早期発見と適切な対応を行う。

目標に対する達成度と評価

達成度（上記の①～④についての評価）



評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 年々身だしなみや挨拶の意識が高まり、学校が明るく落ち着いてきた。
- (2) 早期のケース会議、教育相談との連携、全職員の情報共有をすることで、HR担任との協力ができた。
- (3) 教育相談係を各年次1名ずつ配置しているが、今年は全員副担任が就くことができ、相談しやすい体制ができた。
- (4) 2、3年次の遅刻回数は前年度と比較して大きく減少することができた。また、予鈴までに校門を通過するよう指導したことで、余裕を持って登校する生徒が増え、落ち着いた生活ができています。

改善すべきこと

- (1) 身だしなみ指導が生徒指導部を中心とした一部の職員だけで行っている現状である。全職員の共通理解のもと、気づいた時に気づいた職員が声かけをしていきたい。
- (2) 登校指導場所的那加駅地下道北口は、遠方であり生徒のマナーも良くなっているため、省く。
- (3) 遅刻手続きを職員室で行っているが、生徒指導部外の先生に協力いただくことが多くなった。しかし、常に生徒指導部員が対応するのは不可能であるため、職員室常駐の先生にもご協力願いたい。来年度は、生徒指導部長の時間割は1時間目を全て外してもらうことで対応したい。
- (4) 不登校生徒が年々増加している。HR担任・他の分掌・教科と連携し、学習のつまづきで欠席し始める生徒を早期に把握し、対応していきたい。
- (5) 落とし物や置き忘れが多く、取に来ない生徒が多い。持ち物に名前を書くことの徹底と落とし物ロッカーの場所の設置場所の変更、生活委員会で呼びかけを行い、改善したい。

本年度の当初に立てた目標

- (1) 進路意識の向上
- ① 安易な進路決定に流れないような進路意識の高揚を図る
 - ② 最後まで粘り強くあきらめずに学習する意欲の育成
 - ③ 主体的な進路探究の推進
- (2) 進路実現に向けての学力の向上
- ④ 基礎学力の定着と大学入試に対応できる学力の養成
 - ⑤ 自律的な学習習慣の育成

目標に対する達成度と評価

達成度（上記の①～⑤についての評価）

①	高い	5	-----	④	-----	3	-----	2	-----	1	低い
②	高い	5	-----	4	-----	③	-----	2	-----	1	低い
③	高い	5	-----	④	-----	3	-----	2	-----	1	低い
④	高い	5	-----	④	-----	3	-----	2	-----	1	低い
⑤	高い	5	-----	④	-----	3	-----	2	-----	1	低い

評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 進路意識の向上について
- ① 年次ごとに外部講師による進路講演会を実施し、進路目標達成のために必要な力や心構えなどを聞くことで、進路意識の向上につなげることができた。
 - ② 「進路の手引き」に先輩の『合格体験記』を記載することで、最後まで諦めずに学習することの大切さを伝えることができた。
 - ③ 「ふれあい看護体験」などの職業体験等に積極的な参加を呼び掛け、多くの生徒が参加し、職業観の育成につながった。
 - ④ 1階廊下の掲示板に、大学の主催する講座やコンクールなどの案内を掲示し、自主的に参加するように呼びかけを行った。
- (2) 進路実現に向けての学力の向上について
- ① 1、2年次の模擬試験に向けて「実力養成期間」を設けることで、全体的な意識向上につながった。
 - ② 土曜補習、放課後補習および夏季・冬季補習において、主にハイレベルな講座を開講することで大学入試に対応した力をつけることができた。
 - ③ 教員向けの「小論文指導の研修会」を実施し、教員のスキルを高めることができた。また、小論文指導と面接指導を全校体制で実施することで、濃密な指導ができ、成果として表れている。
 - ④ 放課後の学習室解放により、自律的に学習できる環境を整え、自主的に学習する生徒の支援ができた。

改善すべきこと

- (1) 各年次において、3年間を見通してのより効果のある進路ガイダンスや進路講話、進路研究の方法を模索する。
- (2) 体験学習（オープンキャンパスや大学の主催する講座、体験型プログラム等）やインターンシップ等への自主的な参加をさらに推進する。
- (3) 進路研究をさらに充実させ、進路目標の具現化に向け何が必要なのかの意識づけを図る。
- (4) 教員間の共通理解を図り、生徒が納得できる進路選択ができるように、生徒個々にあった進路指導をより一層心掛ける。
- (5) 新入試制度について、教員および生徒・保護者への理解の徹底を図るために、情報提供をより綿密に行う必要がある。

本年度の当初に立てた目標

- (1) 生徒会活動の充実
- (2) ホームルーム活動の充実
- (3) 学校行事の充実
- (4) 部活動の充実
- (5) 各種交流活動・ボランティア活動の充実
- (6) リーダー性や自主性の発揮

目標に対する達成度と評価

達成度 (上記の(1)～(6)についての評価)

- (1) 高い5-----④-----3-----2-----1 低い
- (2) 高い5-----4-----③-----2-----1 低い
- (3) 高い⑤-----4-----3-----2-----1 低い
- (4) 高い5-----④-----3-----2-----1 低い
- (5) 高い5-----④-----3-----2-----1 低い
- (6) 高い⑤-----4-----3-----2-----1 低い

評価 (評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等)

評価すべきこと

- (1) 執行部と各委員会および議会とが連携し、青桜祭などの改革に取り組むことができた。生徒会新聞の発行に力を入れた。
- (2) 前期は、文化委員が中心となり「文化祭クラス企画」について3回の統一LHRを行い、後期はHR委員が中心となり、生徒会が選んだテーマで「統一LHR」を行った。
- (3) 文化祭や体育祭、球技大会など、生徒主体で運営できるようになってきた。文化祭では文化祭実行委員が中心となり、生徒の手で創り上げる文化祭を実現することができた。体育祭は10月開催による新しい体育祭の構築を生徒主体で行うことができた。
- (4) 部顧問が互いに連携し、生徒との信頼関係を築きながら、限られた活動時間内で、熱心に指導をし、充実した活動を行った。部長会を中心として、生徒たちの自主的運営で行う場面が増えてきた。(部紹介など)
- (5) 各務原特別支援学校との交流活動の充実を図ることができた。また、ロータリークラブや社会福祉協議会などと連携して行う募金活動などで、地域社会の一員である自覚が高まった。
- (6) 各方面で、教員のサポートのもと、生徒がリーダーシップを発揮し主体的に活動できた。

改善すべきこと

- (1) 次年度も生徒主体の形を進めつつ、更にステップアップできるよう、教員側のサポート体制を整える。
- (2) 今年度のアンケート結果をもとに、更により文化祭、体育祭にするために、生徒会役員と教員との話し合いを行い、改善策を早めに決める。
- (3) 部長会の活動をさらに活発にする。
- (4) 交流活動、ボランティア活動については、限られた時間と回数の中で、より教育効果の高い方法で実施する必要がある。

本年度の当初に立てた目標

- (1) 進んで奉仕する心をもって、環境整備に努めるとともに、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培い、心身共に健康で明るく活力ある西高生の育成に努める。
- (2) 自己の健康管理に努める。
- (3) 環境の美化保全に努める。
- (4) 生命の安全に留意する。

目標に対する達成度と評価

達成度（上記の(1)～(4)についての評価）

- | | | | | | |
|--------|---|---|---|---|------|
| (1) 高い | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 低い |
| (2) 高い | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 低い |
| (3) 高い | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 低い |
| (3) 高い | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 低い |

評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 学校行事（定期健康診断・命を守る訓練・大掃除・安全点検等）は、多くの先生のご理解とご協力により計画通りスムーズに実施することができた。
- (2) 「ほけんだより」を毎月、継続的に発行することができ、生徒の健康管理に対する意識を高めることができた。
- (3) 3年目に入った「ゆるリア健求会」は保健委員会の生徒と共に運営しているが、委員会以外の生徒で興味を持って参加してくれる生徒が増えた。特に調理実習が好評で毎年各務原市食生活改善協議会の方々の支援を受けている。今後も継続していきたい。
- (4) 減災カテストを6月と11月に1・2年次全員に実施し、減災・防災意識の向上に努めた。
- (5) 美化委員会は、大掃除・落ち葉清掃、掃除倉庫の管理等主体的に活動することができた。放課後の掃除もしっかりできており、校内・校舎周辺が整然と保たれ、清潔感が感じられる。
- (6) 毎日の掃除に加えて、ウオータークーラーを掃除するなど、特に汚れやすい水回りの美化保全に努めた。

改善すべきこと

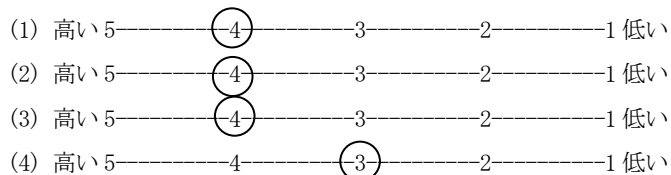
- (1) 日本スポーツ振興センターの災害給付申請件数が増加している。部活動時の怪我による申請が大半を占めており、怪我予防に関する取り組みを考えていく必要がある。
- (2) 校内の美化活動について、美化委員が中心となり活動しているが、より活動の場が広がるよう計画していきたい。
- (3) さらに防災意識を高めるための工夫と検討（実施方法等）をしたい。

本年度の当初に立てた目標

- (1) 図書館活動の充実（読書促進・図書資料の整備・図書委員会の活発化・教科との連携強化）
- (2) 校誌『さくらぎ』の発行
- (3) 「芸術鑑賞会」の円滑な実施
- (4) ふるさと教育（地域課題探究型学習）の推進

目標に対する達成度と評価

達成度（上記の(1)～(4)についての評価）



評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 図書館活動の充実について
 - ① 読書週間に合わせたイベントの他、生徒の個性あふれる「よむよむザウルス」（図書委員）・コンパクト版にした「推薦図書一覧」（全職員）の発行や展示の工夫によって、読書を促すことができた。
 - ② 「朝の読書」は5年目に入り、その意義・効用について共感と理解が深まった。
 - ③ 図書委員が主体的に活動し、文化祭の展示や広報活動に積極的に取り組んだ。
 - ④ 探究型の調べ学習で図書館を利用する授業に対して、教材となる資料を迅速に揃えてサポートすることができた。
 - ⑤ 図書館主催の「教養アップ講座」が恒例行事として定着してきた。
- (2) 校誌『さくらぎ』は、見直しを重ね、昨年度に改善を加え、「学校の記録を残す」というスタンスで印刷製本した精度の高いものを発行した。今年度も同様のものを発行する予定。
- (3) 芸術鑑賞会は、シアター2+1「ロマンティックコメディ―十二夜」の演劇公演であった。わかりやすく楽しい観劇となった。アンケートではほとんどの生徒が「よかった」、「まあよかった」と回答した。
- (4) 「ふるさと教育」は1、2年次生が総合的な学習の時間などを活用して、年次主任の主導・尽力の下、県内の企業・施設や岐阜大学、市長を含む各務原市役所の方々、年次の先生方の協力で実施することができた。生徒たちにとって、地域社会について知る良い機会となった。

改善すべきこと

- (1) 図書館を利用した探究型の学習について、関係教員との事前打合せをしっかりと行い、資料準備やレファレンスをさらに円滑に進めたい。また、教科だけでなく分掌や年次とも連絡を密にして関連資料を整備し、その展示を工夫したい。
- (2) 貸出冊数を増やすための工夫を凝らし、より多くの読書体験を積ませたい。授業等での図書館活用も一層推進する。
- (3) 新しい図書館システムを有効に活用できるよう他校とも連携を図っていきたい。
- (4) 「朝の読書」や「教養UP講座」を継続し、行事として定着させたい。
- (5) 芸術鑑賞会は今までの経緯から、外部会場に移動して行うことは難しいが、体育館でもあまり遜色がなく、生徒に満足してもらえる内容のものを選定・実施したい。
- (6) 探究部として「ふるさと教育（地域課題探究型学習）」に携わることが少なかった。学校全体で取り組むための明確な組織化が急務。

本年度の当初に立てた目標

- 1 基本方針
地域及び生徒・保護者に根ざしたPTA活動の推進を行い、学校と会員との連携を図り相互理解を深めるために活動を活発化する。また、生徒個々の進路目標を達成するための支援を行う。
- 2 重点目標と取り組み
 - (1) PTA活動の充実 PTA活動の活性化、家庭との連携重視、公正な会計の執行
 - (2) 同窓会活動の振興 同窓会との連携・協力、同窓会活動への支援

目標に対する達成度と評価

達成度 (上記の1及び2(1)、(2)についての評価)

1 基本方針	高い	5	-----	④	-----	3	-----	2	-----	1	低い
2 重点目標(1)	高い	5	-----	④	-----	3	-----	2	-----	1	低い
(2)	高い	5	-----	④	-----	3	-----	2	-----	1	低い

評価 (評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等)

- 評価すべきこと**
- (1) PTAと学校が緊密な連携を取り、信頼関係を深めることによって、楽しく活発なPTA活動を行っていただいた。
 - (2) 各クラスの進路総務委員については試行として選出せず、執行部役員のみでの委員会とした。
 - (3) PTA総会は平日実施、授業参観を実施したが、参加率はやや減少した。
(H27:33% → H28:31% → H29:30% → H30:33%→R1:28%)
保護者へのアンケート結果は肯定的評価が高いが昨年度に比べると下がった。(下記※7月実施)
※学校は保護者(地域)が授業や学校行事等を参観する機会等をよく設けている。(86.4%:-0.8)
※学校は、PTAや部活動講演会等の関係団体の徴収金について、その予算や決算、経費の執行内容を詳細に公表している。(91.2%:-0.8)
 - (4) 文化祭(PTAくじ引き大会)は、PTA役員の方々が主体的に、楽しく積極的に取り組んでいただいた。また、くじ引き会場での生徒と保護者の関わりも良好であった。
 - (5) 体育祭でのスポーツ飲料配付については業者変更によって日程変更に対応した。
 - (6) PTA大学見学会は、遠方(滋賀県)の私立大学1校のみのためか参加者が減少した。
 - (7) PTA研修会(キャリアデザイン講座)は、参加者は約20名と少なかったが、参加者には好評であった。
 - (8) 同窓会活動は、創立40周年に向けての話し合いをもつことができた。
-
- 改善すべきこと**
- (1) 各クラスのPTA進路総務委員については総会で会則の改訂を廃止の方向で審議する。
 - (2) PTA大学見学会は、国公立・私立、文系・理系に配慮しながら、愛知県内を候補に来年度以降も実施していきたい。

Ⅱ 令和元年度 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月7日

【意見・要望・評価等】

- ・見学した授業は、昨年よりもさらにICTの機材が有効利用され、生徒の積極的な取り組みが見られてよかった。先生が生徒の意識を高めようとしているのがよく伝わった。双方向の授業なので生徒の興味も湧いてよかった。
- ・「育成したい生徒像」が示されたが、企業側から見た欲しい生徒像は、「自ら考え、行動力があり、SDG'sや環境への意識が高い生徒」である。西校ではボランティア活動が盛んなので、学校独自の取り組みを模索すると良いのではないかと。
- ・電車通学する生徒を見ると、身だしなみやマナーなど爽やかな生徒が多く、好印象を受ける。遅刻が減ったのは、自立した人としては当たり前のことだが素晴らしいことであり、より育成したい生徒像の理想に向かってほしい。引き続き地道な指導の継続をお願いしたい。
- ・アンケートの結果より、単位制高校であることの特徴や魅力が、生徒や保護者に十分に伝わっていないのではないかと。人気の高い西高だからこそ、単位制の良いところをしっかりと伝えられるとよい。また、評価がC、Dの割合が多い項目にも注意して欲しい。特に、生徒を通して進路情報等が保護者にまで十分に伝わるよう配慮してほしい。